

大学評価・学位授与機構が実施する
「教育・研究の状況についての評価」

概要

学部・研究科等の現況分析調査票

- 教育の水準及び質の向上度
(資料 - 1 教育に関する現況調査表作成要領 P5 ~)
- 研究の水準及び質の向上度
(資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領 P3 ~ 6)



教育・研究水準の判断

- 教育水準及び研究水準の分析を行う。
- 各学部・研究科等の目的や方向性など、それぞれの**特色に応じた分析**を行う。
- 分析項目に関する事項を分析し、その判定結果を基に、**各分析項目ごとに水準を判定**する。



教育・研究の質の向上度の判断

- 評価時点での教育・研究水準と、法人化時点での水準の比較により導き出される向上度を「**質の向上度**」とみなす。
- 法人化時点の水準の分析がなされていない現状では、評価時点での水準に至るまでの**具体的な改善・向上事項**を分析することで、質の向上度を判断する。

教育水準に関する分析項目

分析項目	基本的な観点
教育の実施体制	基本的組織の編成 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制
教育内容	教育課程の編成 学生や社会からの要請への対応
教育方法	授業形態の組合せと学習指導方法の工夫 主体的な学習を促す取組
学業の成果	学生が身につけた学力や資質・能力 学業の成果に関する学生の評価
進路・就職の状況	卒業(修了)後の進路の状況 関係者からの評価

基礎資料： 教育活動状況
客観的資料
各部署で適切と判断したデータ

教育水準の分析に当たって根拠となる資料・データ例

■ 分析項目 教育の実施体制

観点1 - 1 基本的組織の編成

学部・研究科の内部構成(学科(課程)・専攻等)
学科(課程)・専攻等別の学生定員と現員
学科(課程)・専攻科等別の教員組織の構成と専任教員の配置
学部・研究科等別の学内・学外兼務教員数

観点1 - 2 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

ファカルティ・ディベロップメントの体制、内容・方法や実施状況
その結果による授業内容・方法の改善の状況

■ 分析項目 教育内容

観点2 - 1 教育課程の編成

教育課程の内容・構成
シラバス(記述例)
履修要項(記述例)
授業時間割(例)
教養教育の位置付け・内容

観点2 - 2 学生や社会からの要請への対応

他学部、他専攻等の履修可能科目の履修登録や単位修得状況
単位互換の状況
科目等履修生の状況
留学プログラムの整備・実施状況
キャリア教育・インターンシップの実施状況

■ 分析項目 教育方法

観点3 - 1 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

教育課程の内容・構成
シラバス(活用・記述例)
履修要項(記述例)
TA・RAの採用状況
授業形態や学習指導法にあわせた教室等の活用状況
開設科目別の履修登録者数
主要授業科目への専任教員の配置

観点3 - 2 主体的な学習を促す取組

学生の主体的な学習を促す取組
単位の実質化^{注)}への配慮を示す資料

注)「単位の实質化」とは、授業時間外の学習時間の確保、組織的な履修指導、履修科目の登録の上限設定等、学生の主体的な学習を促し、十分な学習時間を確保するような工夫を指す。

■ 分析項目 学業の成果

観点4 - 1 学生が身に付けた学力や資質・能力

単位取得状況
進級状況
卒業・修了状況
学位取得状況
資格取得状況
学生が受けた様々な賞の状況

観点4 - 2 学業の成果に関する学生の評価

学業の成果の到達度や満足度を示す調査結果

■ 分析項目 進路・就職の状況

観点5 - 1 卒業(修了)後の進路の状況

職業別・産業別の就職状況
就職率
進学状況
地域別の就職状況

観点5 - 2 関係者からの評価

卒業(修了)生や、進路先、就職先等の関係者からの評価結果等を示す資料
企業との交流会、意見交換会等における意見

印のある資料・データは、機構が構築する大学情報データベースより把握可能ですので、提出していただく必要はありませんが、印のないものは各学部・研究科等から提出していただくこととなります。

現況調査表(教育)の作成プロセス

1 学部 / 研究科等の目的と特徴の記載

- ・明確に記載

2 分析項目ごとの教育水準の判断

- ・観点に係る状況の分析
- ・水準の段階判断及び判断理由

判断を示す記述	判断の際の考え方
期待される水準を大きく上回る	取組や活動、成果の状況が非常に優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を大きく上回ると判断される場合
期待される水準を上回る	取組や活動、成果の状況が優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を上回ると判断される場合
期待される水準にある	取組や活動、成果の状況は良好であり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えていると判断される場合
期待される水準を下回る	取組や活動、成果の状況に問題があり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えられていないと判断される場合

3 質の向上度の判断

- ・質の向上度があったと判断する取組及び判断理由

教育水準の判断基準

- 水準は、関係者の「**期待に応えているか**」という基準で判断する。
- 関係者とは、当該学部 / 研究科等の教育活動やその成果を享受する人々や組織を指す。在校生・受験生及びその家族、卒業(修了)生及びその雇用者、当該学部・研究科等と関係する地域社会などが想定される。

研究水準に関する分析項目

分析項目	基本的な観点
研究活動の状況 組織全体の研究活動の状況を 量的な側面から分析	研究活動の実施状況
研究成果の状況 組織全体の研究成果の状況を 研究成果の質的側面から分析	研究成果の状況

基礎資料： 当該部局を代表する優れた研究活動実績
当該部局が重点的に取り組んだ研究
活性度を示す客観的データ
各部局で適切と判断したデータ

研究水準の分析に当たって根拠となる 資料・データ例

■ 分析項目 研究活動の状況

観点1-1 研究活動の実施状況

(1) 研究の実施状況

- 論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況
- 研究成果による知的財産権の出願・取得状況
- 共同研究の実施状況
- 受託研究の実施状況

(2) 研究資金の獲得状況

- 科学研究費補助金受入状況
- 競争的外部資金受入状況
- 共同研究受入状況
- 受託研究受入状況
- 寄附金受入状況
- 寄附講座受入状況

■ 分析項目 研究成果の状況

観点2-1 研究活動の実施状況

「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト」(表)
「研究業績説明書」(表)

現況調査表(研究)の作成プロセス

- 1 学部・研究科等の目的と特徴の記載
・明確に記載
- 2 分析項目ごとの研究水準の判断
・観点に係る状況の分析
・学部・研究科等を代表する優れた研究業績の選定
(分析項目 「研究成果の状況」の分析に使用)
・水準の段階判断及び判断理由

判断を示す記述	判断の際の考え方
期待される水準を大きく上回る	取組や活動、成果の状況が非常に優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を大きく上回ると判断される場合
期待される水準を上回る	取組や活動、成果の状況が優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を上回ると判断される場合
期待される水準にある	取組や活動、成果の状況は良好であり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えていると判断される場合
期待される水準を下回る	取組や活動、成果の状況に問題があり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えられていないと判断される場合

- 3 質の向上度の判断
・質の向上度があつたと判断する取組及び判断理由



研究水準の判断基準

- 水準は、関係者の「期待に応えているか」という基準で判断する。
- 関係者とは、当該学部・研究科等の研究活動やその成果を享受する人々や組織を指す。学術面では学界、社会・経済・文化面では国際社会や地域、特定の産業分野などが想定される。



現況調査表作成に関する情報

1 教育関連

資料 - 1 教育に関する現況調査表作成要領

2 研究関連

資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領

資料 - 3 「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(表)」及び「研究業績説明書(表)」作成要領



学部・研究科等を代表する優れた研究業績の選定方法

(資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領 P4～5)



選定に当たっての留意点

- 学部・研究科等の**組織としての研究成果**を評価するもので、教員個人の研究成果を評価するものではない。
- 選定に当たっては、平成16年4月～平成20年3月の間に公開された研究業績のうち、**第三者による評価結果や客観的指標等の根拠資料^{注1)}**に基づいて、目的に照らして組織を代表する優れた研究業績として相応しいものを厳選する。
- 各学部・研究科等は、十分な根拠に基づいて、**上位二つの水準^{注2)}に該当する業績**を厳選し、自己評価能力を問われることのないように留意する。
- 選定する研究業績数は、平成19年5月1日に在籍している助教以上の専任教員数の50%を最大値とする。

注1) 第三者による評価結果や客観的指標等の根拠資料

学術面(想定する関係者:関係する学界等)

- ・当該分野で定評のあるレフェリー制の学会誌・専門学術誌での記載
- ・論文掲載時のレフェリーによる評価
- ・専門雑誌、新聞などでの書評・紹介・引用
- ・研究史・学界動向論文等における言及、学術誌等の文献目録における記載
- ・掲載された専門雑誌のImpact Factor、論文のCitation Index
- ・研究業績により得られた学会賞・学術賞・国際賞等
- ・研究業績に関わる招待講演・基調講演を行った当該分野における内外の定評ある学会・国際会議等(学会・会議名、開催年を含む)

社会、経済、文化面(想定する関係者:国際社会や地域、特定の産業分野等)

- ・当該業績の利用・普及状況や地域、特定の産業分野での応用・活用状況、政策への具体的な反映状況
- ・それぞれの専門分野に関わる教科書・啓蒙書などの執筆の場合には、それらが権威ある書評などに取り上げられている、あるいは、長期にわたり広く利用され影響を与えているなどが考えられる。
- ・パフォーマンスなどの場合には、当該分野について、権威ある批評家に取り上げて成果を高く評価しているなどが考えられる。

注2) 上位二つの水準

【研究業績の判断基準】

判断は、1) 学術面、2) 社会、経済、文化面のいずれかの視点で行ってください。

1) 学術面

SS: 当該分野において、卓越した水準にある
S: 当該分野において、優秀な水準にある
A: 当該分野において、良好な水準にある
B: 当該分野において、相応の水準^{注)}にある
C: 上記の段階に達していない

2) 社会、経済、文化面

SS: 社会、経済、文化への貢献が卓越している
S: 社会、経済、文化への貢献が優秀である
A: 社会、経済、文化への貢献が良好である
B: 社会、経済、文化への貢献が相応である
C: 上記の段階に達していない

注) 「相応の水準」とは、当該分野の専門家が判断して標準的な水準にあることを指します。この水準を基準として、上位二つの区分(SS及びS)を判断してください。

上位二つの水準に該当する業績を選定する際の考え方

- 学部・研究科等の研究目的に照らして、当該分野において通常の水準に達している業績を「相応の水準」(B) (合格)と判断する。
- その上で、それを上回る業績について、**第三者による評価結果や客観的指標等の根拠資料**に基づいて、「優秀な水準」(S)、さらに「卓越した水準」(SS)を判断する。
- 分析項目 「研究成果の状況」の分析の根拠資料として、SS及びSに該当する業績のリスト及びそれぞれの説明書を作成する。

選定した研究業績に関する資料

- 学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(表)
 (資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領 P7)
 (資料 - 3 「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(表)」、
 及び「研究業績説明書(表)」作成要領)

- 研究業績説明書(表)
 (資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領 P8)
 (資料 - 3 「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(表)」、
 及び「研究業績説明書(表)」作成要領)

- 重点的に取り組む領域説明書(表)
 「重点的に取り組む領域」とは、 中期目標・中期計画に記載している重点的に
 取り組む研究、 中期目標・中期計画に当初記載していない場合でも、その後、
 重点的に実施することになった研究

機構が作成する評価報告書における 現況分析結果の表し方

- 分析結果は、学部・研究等单位で示す。
- 教育・研究水準については、活動及び成果の観点から分析項目ごとに、評価時点における状況を4段階で示し、判断理由を記述する。

判断を示す記述	判断の際の考え方
期待される水準を大きく上回る	取組や活動、成果の状況が非常に優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を大きく上回ると判断される場合
期待される水準を上回る	取組や活動、成果の状況が優れており、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待を上回ると判断される場合
期待される水準にある	取組や活動、成果の状況は良好であり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えていると判断される場合
期待される水準を下回る	取組や活動、成果の状況に問題があり、それぞれの学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えられていないと判断される場合

「研究業績説明書」(表)
 (資料 - 2 研究に関する現況調査表作成要領 P8)

業績番号 (10桁)	
業績種別 (1桁)	
業績年度 (4桁)	

研究業績説明書(表・別紙)

論文名	研究機関	
著者氏名(姓・名・姓)		
研究内容(目的・方法)	研究種別	研究年度
1. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。		
2. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。 (1) 目的 (2) 方法 (3) 結果 (4) 考察 (5) 結論 (6) 今後の課題		
3. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。		
4. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。		
1. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。	2. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。	3. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。
4. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。	5. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。	6. 研究業績の概要(目的・方法・結果)を要約して記述してください。